

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立上之郷小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 41 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・府や全国の平均を上回っているものと下回っているものの差が大きい。

平均正答率（本校 64／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
・ 3三（1）丸山さんの【文章の下書き】の中の一部アを、漢字を使って書き直す。 (85.4/78.3)	3三（2）オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部オで、波線部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。 (26.8/43.6)
・ 2三 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。 (43.9/34.4)	2四	面ファスナーに関する資料を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているかをまとめて書く。 (34.1/29.7)

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	65.8	58.4	◇	7.4
国語の勉強は大切だと思いますか。	97.6	93.2		4.4
国語の授業の内容はよくわかりますか。	85.3	84.2		1.1
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	92.7	91.8		0.9
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。	90.2	82.2		8.0
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりできますか。	80.5	63.8	○	16.7
国語の授業では、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。	80.5	71.6	◇	8.9
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。	83.0	74.3	◇	8.7
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。	97.6	97.5		0.1
解答時間は十分でしたか。（国語）	65.9	70.3		4.4

○文の中における修飾と被修飾との関係をとらえる問題の正答率が低い。

○言語事項の「ことばのきまり」の学習に課題が見られる。

○文章を書く問題の正答率が全国平均より高いが、他の問題の正答率と比較すると低い。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・府の平均に比べると上回っている項目が多いが、下回っている項目について開きが大きい。

平均正答率（本校 69／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
1（4）午後1時35分から50分後の時刻を書く。 (92.7/89.2)	2（1）直角三角形の面積と答えを求める式と答えを書く。 (31.7/55.1)
1（2）500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く。 (85.4/86.7)	4（2）8Lに4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。 (56.1/56.2)
3（5）5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ。 (82.9/73.9)	4（3）30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。 (56.1/51.5)

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	68.3	67.8		0.5
算数の勉強は大切だと思いますか。	90.4	96.0	◇	5.6
算数の授業の内容はよく分かりますか。	83.0	94.6	○	11.6
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	92.7	92.6		0.1
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	78.0	73.9		4.1
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	87.8	82.7	◇	5.1
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	95.2	89.0	◇	6.2
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	92.7	91.9		0.8
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く時間がありました。それらについてどのように解答しましたか。	100.0	97.8		2.2
解答時間は十分でしたか。（算数）	68.3	81.7	○	13.4

○三角形の底辺と高さの関係を理解することに課題がある。

○わり算の式の意味を理解することに課題がある。

○式や言葉を用いて説明することに課題がある。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1, 2と3, 4はそれぞれ同じ傾向と捉える。(例えば, 1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない)

また, それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し, それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して主に5%程度の差があるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	○就寝時間が不規則になっている。	(2) 毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。 (68.2/81.2)
	○朝に関しては規則正しい生活ができている。	(3) 毎日、同じくらいの時間に起きている。 (97.5/90.4)
	○自己肯定感が高い児童が多い。	(7) 将来の夢や目標を持っていますか。 (85.3/80.3)
	○本や新聞を読む時間が少ない。	(23) 新聞を読んでいますか。 (9.8/14.8)
【学校生活の様子】	○学校や協力して活動することに対して、肯定的な感覚をもっている。	(8) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。 (92.6/84.3)
		(13) 学校に行くのは楽しいと思いますか。 (90.2/83.4)
		(16) 友だちと協力するのは楽しいと思いますか。 (100.0/93.9)
【学校での学習の様子】	○話し合う活動に関して、肯定的な回答をしている児童が多い。	(37) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 (92.7/78.8) (41) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。 (85.4/73.5) (42) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか (92.7/81.3)

本校の取組

◎これまでの取組

本校は「ことばの力を高め言語活動の充実した授業づくり」を研究テーマに国語科を土台として児童のことばの力、問題文を読み取る力を高め、主体的・対話的で深い学びにつながる聞く力・話す力・書く力を含めた表現力の育成、さらに広い意味での読み取る力の育成を目指し4年目となる。

基礎基本の定着に係る取組みでは、昨年度に引き続き、

- 教室前の前面の掲示物をユニバーサルデザインの観点から減らすように統一
- 学習規律の徹底として、チャイムと同時に授業が始められるよう共通した意識をもった取組み
- 朝の学習の時間に、週単位で国語と算数を交互に実施し、漢字や計算の他、既習事項の定着を図る問題や、自分の考えを簡単にまとめる練習や説明を書く練習
- 話す聞くの単元の授業研究の積み重ね

言語活動の充実に向けては

- 児童自らが「つけたい力」「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識できるような授業づくり
- 文章を読んで要約したりまとめたりするなどの「読み取る力」が向上する授業づくり
- 学びの広がりや深まりのあるペア、グループ学習を生かした学び合う場面を工夫した授業の展開
- 書きかたの型を示す・書く時間を確保する等、児童が安心して考えを書くことができる工夫
- アンケート等を通して学級の実態や、個々の児童の実態把握を基にした学級経営
- 学期ごとに1週間「家庭学習強化週間」を設けるなど家庭学習を充実させるための取組み

◎これからの取組

【全体的な取組み】

- ① 学校の教育活動全体を通じて、子どもたちの学びをつなぐことを大切にしたい。
- ② 国語と算数をつなげていくような取り組みをする。
- ③ 話す聞くの研究を深めていく。

【国語科において】

- ① 国語の授業が自分の将来や日常生活に役立つ意味のあるものであることを子どもたちに伝えるために、日常生活での言語活動と国語の授業のつながりが見えるようにする。
- ② 「話す聞く」の単元での学習において、自分の考えを効果的に正しく伝える活動を意識する。
- ③ 報告文や説明文などを書く活動を通して、資料選択の意図を読みとれるようにしていく。

【算数科において】

- ① 図形領域においては特に、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出すことができるようにすることを意識した授業作りが考えられる。また、水平になっていない辺を底辺にしている場合についても、必要な情報を選び出し、面積を求めることができるようにする授業作りが考えられる。さらに他にどこの長さが分かれば求めることができるかを考える授業作りが考えられる。
- ② 数と計算の領域では、具体物を操作したり、絵や図に表したりしながら、例えば、「なぜ $4 \div 8$ の式になるといえるのか」について理由を説明できるようにする授業作りが考えられる。その際、立式した背景を想像し児童の考えを共感的に受け止めながら、問題場面を理解していくことが大切だと考える。
- ③ 考え方説明できるようにするために、長さの学習で1cmを10等分して1mmをつくったり、小数の学習の時に1を10等分して0.1をつくったりしたことなどを振り返り、テープ図などを用いて考える授業づくりが考えられる。